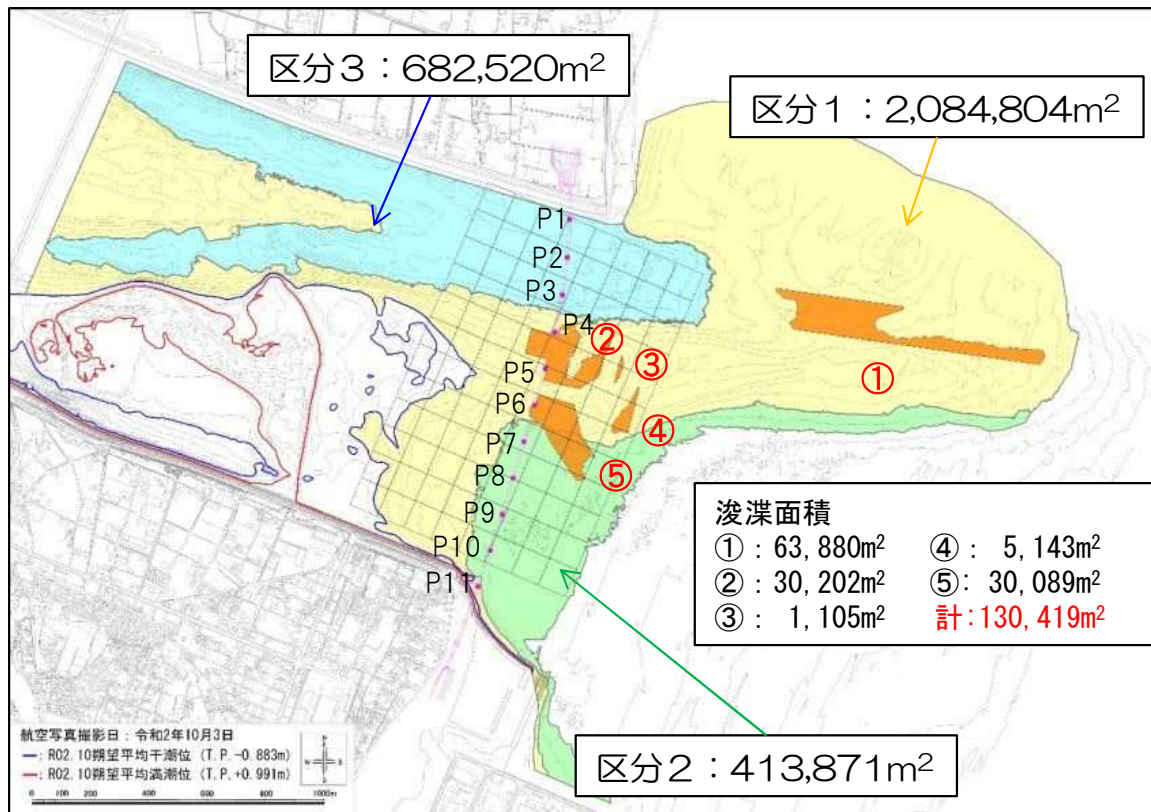


■ 浚渫の影響評価 ～浚渫範囲の確認と影響評価の流れ～



令和2年度渇水期の浚渫範囲は130,419m²であり、ハビタット区分1に対しては5.5%、区分2に対しては3.6%に相当している。これを踏まえて、指標種の生息可能範囲への影響を予測した。

■ 浚渫範囲とハビタット区分の面積



区分	ハビタット面積 m ²	想定最大時	
		浚渫面積 m ²	割合 %
区分1	2,084,804	115,555	5.5
区分2	413,871	14,863	3.6
区分3	682,520	0	0.0

これはあくまでも設定したハビタット区分に対するものであり、生物の生息範囲に対する浚渫範囲ではない。

底生動物の生息評価モデルを用いて生息可能範囲を予測し、その範囲に対して浚渫範囲がどの程度の影響になるか予測（定量評価）。

浚渫面積が被っている**区分1**、**区分2**の指標種について影響評価を行う。

区分	選択した指標種	生息評価モデル
区分1	3種：フジノハナガイ、バカガイ、ヒサシソコエビ科	地盤高のみ
区分2	2種：チヨノハナガイ、シノブハネエラスピオ	選好度モデル(地盤高&含泥率)